(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015 年 6 月 4 日(04.06.2015)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2015/079796 A1

(51) 国際特許分類:
A61F 13/496 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2014/075489

(22) 国際出願日: 2014 年 9 月 25 日(25.09.2014)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2013-248221 2013 年 11 月 29 日(29.11.2013) JP

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 深澤　潤(FUKASAWA, Jun); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 栗田　典之(KURITA, Noriyuki); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７　ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: 一色国際特許業務法人(ISSHIKI & CO.); 〒1050004 東京都港区新橋２丁目１２番７号 労金新橋ビル Tokyo (JP).

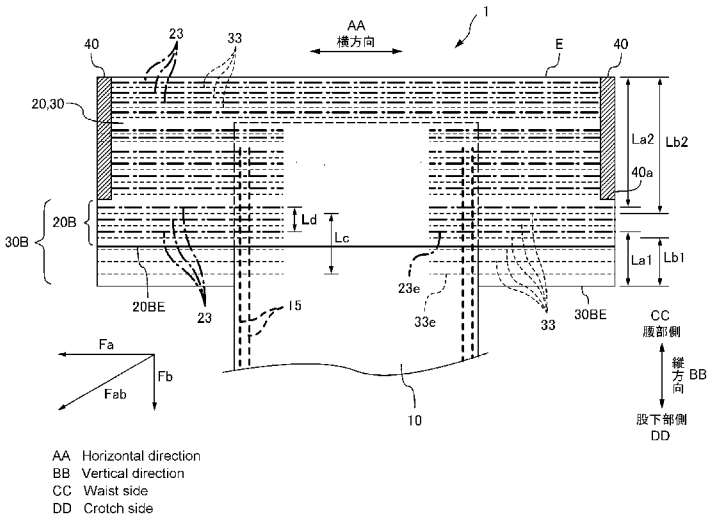
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) **Title**: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称 : 吸収性物品



(57) **Abstract**: This absorbent article (1) comprises an absorbent main body (10), a ventral band member (20) and a dorsal band member (30). Ventral elastic members (23) stretch in the horizontal direction and are arranged on the ventral band member (20), and dorsal elastic members (33) stretch in the horizontal direction and are arranged on the dorsal band member (30). The ventral band member (20) and dorsal band member (30) have a bonding area (40) where part of both ends (20e) on the ventral band member (20) in the horizontal direction and part of both ends (30e) on the dorsal band member (30) in the horizontal direction are bonded, and a non-bonding area (41) which, in the vertical direction, is positioned to the crotch side of the bonding area (40) and where both ends (20e) on the ventral band member (20) and both ends (30e) on the dorsal band member (30) are not bonded; at least to the crotch side of the bonding area (40) in the vertical direction, the ventral elastic members (23) and dorsal elastic members (33) are arranged offset in the vertical direction.

(57) 要約:

[続葉有]

WO 2015/079796 A1

添付公開書類:

— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

本発明の吸収性物品（１）は、吸収性本体（１０）と、腹側帯部材（２０）と、背側帯部材（３０）とを有し、腹側帯部材（２０）には横方向に伸縮する腹側弾性部材（２３）が配置され、背側帯部材（３０）には横方向に伸縮する背側弾性部材（３３）が配置され、前記腹側帯部材（２０）及び前記背側帯部材（３０）は、腹側帯部材（２０）における横方向の両側縁（２０ｅ）の一部と背側帯部材（３０）における横方向の両側縁（３０ｅ）の一部とが接合される接合部（４０）と、接合部（４０）よりも縦方向の股下部側に位置し、腹側帯部材（２０）における両側縁（２０ｅ）と背側帯部材（３０）における両側縁（３０ｅ）とが接合されない非接合部（４１）とを有し、少なくとも接合部（４０）よりも縦方向の股下部側では、腹側弾性部材（２３）と背側弾性部材（３３）とが縦方向にずれて配置されている。

明　細　書

発明の名称 ： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 排泄物を吸収する吸収性物品として、３ピースタイプの使い捨ておむつが知られている。３ピースタイプの使い捨ておむつは、一般に着用者の股間にあてがわれて排泄物を吸収する吸収性本体と、着用者の腹側部を覆う腹側帯部材と、着用者の背側部を覆う背側帯部材とを有し、腹側帯部材と背側帯部材との間に吸収性本体が掛け渡された状態で、腹側帯部材の両側縁と背側帯部材の両側縁とが接合されて一対の接合部（サイドシール部）が形成された結果、胴回り開口部と一対の脚周り開口部とが形成される。そして、腹側帯部材と背側帯部材にはそれぞれ横方向に伸縮する弾性部材が配置され、着用者の胴周りにおむつがフィットする構成となっている。このような３ピースタイプの使い捨ておむつの中には、腹側帯部材、及び、背側帯部材に、それぞれ、接合部より下方（股下部側）に延出し、且つ、横方向の両側縁が接合されていない部位（延出部）を設けたものが提案されている（例えば特許文献１参照）。腹側帯部材に延出部を設けることで、おむつがふんどしのような外観を呈してしまうことを防ぎ、背側帯部材に延出部を設けることで、着用者の臀部の被覆性を高めることができる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２０１１－７８６４６号

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 例えば、おむつでは、腹側で排出される尿が確実に吸収されるように、背側よりも腹側の液体吸収可能量を多くする等の工夫が施されているため、お

むつの前後を正しく着用してもらう必要がある。上述の３ピースタイプの使い捨ておむつの場合、腹側帯部材の形状と背側帯部材の形状とを同じにしてしまうと、おむつに前後の違いがあることが認識されず、おむつが前後誤って着用されてしまう虞がある。例えば、特許文献１に記載のおむつのように、腹側帯部材の両側縁と背側帯部材の両側縁とが接合された状態で、腹側帯部材の延出部に配置される弾性部材と背側帯部材の延出部に配置される弾性部材とが厚さ方向に重なる構成になっていると、腹側帯部材の延出部が弾性部材の収縮により受ける影響と、背側帯部材の延出部が弾性部材の収縮により受ける影響とが、同じになってしまう。その結果、腹側帯部材の延出部の形状と背側帯部材の延出部の形状とが同じになり、おむつが前後誤って着用されてしまう虞がある。

[0005] 本発明は、上記のような従来の問題に鑑みてなされたものであって、その目的は、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことを抑制することにある。

課題を解決するための手段

[0006] 上記目的を達成するための主たる発明は、縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、を有し、前記腹側帯部材には前記横方向に伸縮する腹側弾性部材が配置され、前記背側帯部材には前記横方向に伸縮する背側弾性部材が配置され、前記腹側帯部材、及び、前記背側帯部材は、前記腹側帯部材における前記横方向の両側縁の一部と前記背側帯部材における前記横方向の両側縁の一部とが接合される接合部と、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側に位置し、前記腹側帯部材における前記両側縁と前記背

側帯部材における前記両側縁とが接合されない非接合部と、を有し、少なくとも前記接合部よりも前記縦方向の股下部側では、前記腹側弾性部材と前記背側弾性部材とが前記縦方向にずれて配置されていることを特徴とする吸収性物品である。

本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0007] 本発明によれば、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことを抑制できる。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]本発明の吸収性物品の一例である使い捨ておむつの斜視図である。

[図2]展開状態のおむつを肌側から見た平面図である。

[図3]展開状態のおむつを非肌側から見た平面図である。

[図4]図４Ａは図２中のＡ－Ａ断面図であり、図４Ｂは図２中のＢ－Ｂ断面図である。

[図5]腹側延出部に配置される腹側弾性部材及び背側延出部に配置される背側弾性部材を説明する図である。

[図6]自然状態の腹側延出部及び背側延出部を説明する図である。

[図7]使い捨ておむつの変形例を説明する図である。

発明を実施するための形態

[0009] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆い

ながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、を有し、前記腹側帯部材には前記横方向に伸縮する腹側弾性部材が配置され、前記背側帯部材には前記横方向に伸縮する背側弾性部材が配置され、前記腹側帯部材、及び、前記背側帯部材は、前記腹側帯部材における前記横方向の両側縁の一部と前記背側帯部材における前記横方向の両側縁の一部とが接合される接合部と、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側に位置し、前記腹側帯部材における前記両側縁と前記背側帯部材における前記両側縁とが接合されない非接合部と、を有し、少なくとも前記接合部よりも前記縦方向の股下部側では、前記腹側弾性部材と前記背側弾性部材とが前記縦方向にずれて配置されていることを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、腹側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）が腹側弾性部材の収縮により受ける影響と、背側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）が背側弾性部材の収縮により受ける影響とが異なるため、腹側帯部材の延出部の形状と背側帯部材の延出部の形状とを異ならせることができる。よって、吸収性物品に前後の違いがあることを使用者に認識させることができ、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことを抑制できる。

[0010] かかる吸収性物品であって、前記腹側帯部材における前記縦方向の股下部側の端縁と、前記背側帯部材における前記縦方向の股下部側の端縁とが、前記縦方向にずれていることを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、腹側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）の形状と、背側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）の形状とを、より異ならせることができ、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことをより確実に抑制できる。

[0011] かかる吸収性物品であって、前記腹側帯部材における前記端縁に対して、前記背側帯部材における前記端縁が、前記縦方向の股下部側にずれていることを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、一般的な下着の形状に近付けることがで

きるため、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことをより確実に抑制できる。また、着用時に着用者の脚が腹側帯部材に引っ掛かり難くなり、且つ、着用者の脚の可動域を広げることができる。一方、背側帯部材による着用者の臀部の被覆性を高めることができる。

[0012] かかる吸収性物品であって、前記縦方向の最も股下部側の前記腹側弾性部材に対して、前記縦方向の最も股下部側の前記背側弾性部材が、前記縦方向の股下部側にずれていることを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、着用時に着用者の脚が腹側弾性部材に引っ掛かり難くなり、且つ、着用者の脚の可動域を広げることができる。一方、着用者のより股下部側の位置に背側帯部材をフィットさせることができ、着用者の臀部の被覆性を高めることができる。

[0013] かかる吸収性物品であって、前記吸収性本体における前記横方向の側部には、前記縦方向に伸縮する脚周り弾性部材が配置され、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側において伸長状態で配置された前記背側弾性部材の一部と、伸長状態で配置された前記脚周り弾性部材の一部と、が交差して接合されていることを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、吸収性物品に前後の違いを出す部位であり、背側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）が、着用時に、横方向及び縦方向に引っ張られるため、着用者の臀部に対する背側帯部材の延出部のフィット性が高まり、着用者の臀部の被覆性を高めることができる。

[0014] かかる吸収性物品であって、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側において伸長状態で配置された前記背側弾性部材の一部と、伸長状態で配置された前記脚周り弾性部材の一部と、が交差して接合された領域の前記縦方向の長さの方が、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側において伸長状態で配置された前記腹側弾性部材の一部と、伸長状態で配置された前記脚周り弾性部材の一部と、が交差して接合された領域の前記縦方向の長さよりも長いことを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、背側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）のフィット性をより高めることができる。また、同じく吸収性物品に前後の違いを出す部位であり、腹側帯部材のうち接合部よりも縦方向の股下部側の部位（延出部）のフィット性が高まるため、排泄物を吸収した吸収性本体のみが垂れ下がってしまうことを抑制できる。

[0015] かかる吸収性物品であって、前記腹側帯部材のうち前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の部位の前記横方向の収縮力の方が、前記背側帯部材のうち前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の部位の前記横方向の収縮力よりも高いことを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、一般的な下着の形状に近付けることができるため、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことをより確実に抑制できる。また、着用時に着用者の脚が腹側帯部材に引っ掛かり難く、且つ、着用者の脚の可動域を広げることができる。一方、背側帯部材による着用者の臀部の被覆性を高めることができる。

[0016] かかる吸収性物品であって、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の前記腹側弾性部材のうち前記吸収性本体と重なる部位は、前記横方向に非連続となる部位を有することを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、接合部よりも縦方向の股下部側において、腹側帯部材と重なる吸収性本体の部位に皺が発生してしまうことを抑制できる。よって、例えば、腹側帯部材と重なる吸収性本体の部位に前後判断の為の文字やイラストが設けられている場合に、それらが見え難くなってしまうことを抑制でき、吸収性物品が前後誤って着用されてしまうことを抑制できる。

[0017] かかる吸収性物品であって、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の前記腹側弾性部材及び前記背側弾性部材のデニールは、前記縦方向において前記接合部と重なる前記腹側弾性部材及び前記背側弾性部材のデニールよりも低いことを特徴とする吸収性物品である。

このような吸収性物品によれば、縦方向において接合部と重なる腹側弾性

部材及び背側弾性部材により、着用者への吸収性物品のフィット性を高めつつ、接合部よりも縦方向の股下部側の腹側弾性部材及び背側弾性部材の跡を着用者に付き難くさせることができる。

[0018] ＝＝＝使い捨ておむつ１の構成＝＝＝

図１は、本発明の吸収性物品の一例である使い捨ておむつ１（以下、おむつ１）の斜視図である。図２は、展開状態のおむつ１を肌側（着用者に接触する内側）から見た平面図である。図３は、展開状態のおむつ１を非肌側（外側）から見た平面図である。図４Ａは、図２中のＡ－Ａ断面図であり、図４Ｂは、図２中のＢ－Ｂ断面図である。おむつ１は、互いに直交する三方向として、縦方向と、横方向と、厚さ方向とを有する。また、おむつ１は、所謂３ピースタイプのおむつであり、着用者の股間部にあてがわれ尿等の排泄物を吸収する吸収性本体１０と、着用者の腹側部を覆う腹側帯部材２０と、着用者の背側部を覆う背側帯部材３０と、を有する。

[0019] 図２，図３に示すように、おむつ１は、展開状態において、腹側帯部材２０と背側帯部材３０とが互いに縦方向に間隔をあけて平行に並んだ状態で、これらの間に吸収性本体１０が掛け渡されつつ、吸収性本体１０の長手方向（縦方向）の各端部１０ｅａ，１０ｅｂがそれぞれ最寄りの帯部材２０，３０に接合固定されており、その外観形状は平面視略Ｈ形状をなしている。そして、この状態から、吸収性本体１０がその長手方向の略中央部ＣＬを折り位置として二つ折りされる。この二つ折りの状態において、互いに対向する腹側帯部材２０と背側帯部材３０とが、着用者の脇腹に当接すべき部分である腹側帯部材側縁部２０ｅと背側帯部材側縁部３０ｅと（つまり、横方向の各端部）にて接合・連結されると、帯部材２０，３０同士が環状に成形される。これにより、図１に示すような胴周り開口１ＨＢ、及び、一対の脚周り開口１ＨＬが形成される。

[0020] 以下、おむつ１の構成部品１０，２０，３０について説明する。

吸収性本体１０は、図２や図４Ｂに示すように、吸収性コア１１と、表面シート１２と、裏面シート１３と、外装シート１４と、脚周りギャザーＬＧ

用の脚周り弾性部材１５と、立体ギャザーＬＳＧ用の立体ギャザー弾性部材１６と、を有する。なお、図２では、仮想的に吸収性コア１１や脚周り弾性部材１５を示している。

[0021] 吸収性コア１１は、尿等の排泄物を吸収するものであり、例えば、パルプ繊維等の液体吸収性素材を積層したものが挙げられる。なお、吸収性コア１１に例えば高吸収性ポリマーを含有させてもよいし、吸収性コア１１をティッシュペーパー等の液透過性シート（不図示）で被覆してもよい。また、図２や図３に示すように、吸収性コア１１の平面視形状を、縦方向の中央部がくびれた砂時計形状とすることで、着用者の脚と吸収性コア１１との干渉を小さくし、着用者の脚を動かし易くさせることができる。

[0022] 表面シート１２は、吸収性コア１１を肌側から覆う液透過性のシートであり、例えば、不織布が挙げられる。裏面シート１３は、吸収性コア１１を非肌側から覆う液不透過性のシートであり、例えば、ポリエチレンやポリプロピレン等のシートが挙げられる。そして、表面シート１２と裏面シート１３との間に吸収性コア１１を挟んだ状態において、吸収性コア１１からはみだす両シート１２，１３の周縁が貼り合わされている。また、外装シート１４は、裏面シート１３を非肌側から覆って吸収性本体１０の外装をなすシートであり、例えば、不織布が挙げられる。

[0023] また、図２や図４に示すように、外装シート１４によって、立体ギャザーＬＳＧ、及び、脚周りギャザーＬＧが形成される。立体ギャザーＬＳＧは、表面シート１２の横方向の各端部にそれぞれ起立して設けられた防漏壁部であり、脚周りギャザーＬＧは、一対の脚周り開口１ＨＬにそれぞれ形成される脚周り伸縮部のことである。具体的に説明すると、外装シート１４は、裏面シート１３を非肌側から覆った際に裏面シート１３の横方向の両側から横方向に大きくはみだし、このはみ出した部分が、吸収性本体１０の横方向の端部１０ｅをなす位置で横方向の中央側に折り返される。この折り返し位置１０ｅの近傍であり、２層となった外装シート１４の間に、脚周り弾性部材１５（例えば糸ゴム）が縦方向に伸長した状態で固定され、これにより、脚

周りギャザーＬＧが形成される。また、折り返された外装シート１４の端部は、更に内側に折り返されて、表面シート１２の横方向の端部に接合される。一方、２回目の折り返し位置の近傍であり、２層となった外装シート１４の間に、立体ギャザー弾性部材１６（例えば糸ゴム）が縦方向に伸長した状態で固定される。よって、立体ギャザー弾性部材１６の収縮力によって、吸収性本体１０が表面シート１２側を内周側として湾曲すると共に、表面シート１２と外装シート１４の接合部を基端部ＬＳＧｂとして、外装シート１４の折り返し部分が立体ギャザーＬＳＧとして表面シート１２から起立する。なお、本実施形態では、脚周り弾性部材１５の数、及び、立体ギャザー弾性部材１６の数を、それぞれ２本としているが、これに限らない。

[0024] 腹側帯部材２０は、長方形状の柔軟な２枚のシート、ここでは２枚の不織布２１，２２と、複数本の弾性部材２３（例えば糸ゴム）と、を有する。そして、図４に示すように、２枚の不織布２１，２２は、間に弾性部材２３を介挿させた状態で重ねて接合されており、複数本の弾性部材２３は、縦方向に間隔をあけて並び、且つ、横方向に伸長した状態で不織布２１，２２に固定されている。背側帯部材３０も同様に、２枚の不織布３１，３２は、間に弾性部材３３を介挿させた状態で重ねて接合されており、複数本の弾性部材３３（例えば糸ゴム）は、縦方向に間隔をあけて並び、且つ、横方向に伸長した状態で不織布３１，３２に固定されている。ゆえに、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０には横方向の伸縮性が付与され、おむつ１が着用者にフィットする構成となっている。以下の説明のため、腹側帯部材２０に設けられた横方向に伸縮する弾性部材２３を腹側弾性部材２３と呼び、背側帯部材３０に設けられた横方向に伸縮する弾性部材３３を背側弾性部材３３と呼ぶ。なお、図２、図３は、腹側帯部材２０（腹側弾性部材２３）及び背側帯部材３０（背側弾性部材３３）の伸長状態の平面図である。

[0025] そして、横方向に沿って設けられる腹側帯部材２０は、縦方向に沿って設けられる吸収性本体１０の縦方向の一端部１０ｅａを吸収性本体１０の非肌側から覆いながら、その一端部１０ｅａに横方向の中央部が固定されている

。一方、横方向に沿って設けられる背側帯部材３０は、縦方向に沿って設けられる吸収性本体１０の縦方向の他端部１０ｅｂを吸収性本体１０の非肌側から覆いながら、その他端部１０ｅｂに横方向の中央部が固定されている。なお、吸収性本体１０は、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０のうち縦方向の腰部側の端部２０Ｅ，３０Ｅに重ならないように配置されている。また、吸収性本体１０と腹側帯部材２０とが重なる部位、及び、吸収性本体１０と背側帯部材３０とが重なる部位は、その全域又は一部（周縁や中央部等）が接着剤等で接合されている。

[0026] また、腹側帯部材２０、及び、背側帯部材３０は、腹側帯部材２０における横方向の両側縁２０ｅの一部と背側帯部材３０における横方向の両側縁３０ｅの一部とが接合される接合部４０と、接合部４０よりも縦方向の股下部側（中央側）に位置し、腹側帯部材２０における両側縁２０ｅと背側帯部材３０における両側縁３０ｅとが接合されない非接合部４１と、を有する。なお、この実施形態では、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０は縦方向腰部側の各端縁Ｅが揃えられた状態で接合されているが、これに限らず、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０の縦方向腰部側の各端縁Ｅが縦方向にずれていてもよい。また、以下の説明のため、腹側帯部材２０のうち、縦方向において接合部４０と重なる部位を腹側本体部２０Ａと呼び、縦方向において非接合部４１と重なる部位を腹側延出部２０Ｂと呼ぶ。同様に、背側帯部材３０のうち、縦方向において接合部４０と重なる部位を背側本体部３０Ａと呼び、縦方向において非接合部４１と重なる部位を背側延出部３０Ｂと呼ぶ。

[0027] なお、腹側帯部材２０と背側帯部材３０の接合方法としては、例えば、接着剤、ファスニングテープ、粘着テープ、ヒートシール、高周波シール、超音波シールによる接合方法等、公知の接合方法が挙げられる。また、腹側帯部材２０と背側帯部材３０を接合した状態、即ち、パンツ型の状態でおむつを使用者に提供してもよいし、腹側帯部材２０と背側帯部材３０を接合せずに使用者に接合してもらう状態で、即ち、オープン型の状態でおむつを使用者に提供してもよい。

[0028] ＝＝＝腹側延出部２０Ｂ及び背側延出部３０Ｂについて＝＝＝

図５は、腹側延出部２０Ｂに配置される腹側弾性部材２３及び背側延出部３０Ｂに配置される背側弾性部材３３を説明する図である。なお、図５は、腹側帯部材２０と背側帯部材３０とが接合部４０で接合されたパンツ型のおむつ１、即ち、腹側帯部材２０と背側帯部材３０とが重ね合わされて伸長した状態の図である。図６は、自然状態の腹側延出部２０Ｂ及び背側延出部３０Ｂを説明する図である。ところで、おむつ１上における排尿位置は、おむつ１の縦方向の中央部ＣＬよりも腹側である。そのため、おむつ１では、吸収性本体１０のうち背側部分の液体吸収可能量よりも腹側部分の液体吸収可能量を多くする工夫が施されている。例えば、本実施形態のおむつ１では、図２に示すように、おむつ１の縦方向の中央部ＣＬよりも背側の位置において吸収性コア１１が最もくびれている。そうすることで、吸収性本体１０は速やかに且つ確実に尿を吸収できる。

[0029] おむつ１には上述のような工夫が施されているため、おむつ１の前後を正しく着用してもらう必要がある。そのために、おむつ１では、例えば、図３に示すように、裏面シート１３のうち腹側帯部材２０と重なる部位１３ｆや背側帯部材３０と重なる部位１３ｂに、おむつ１の前後を判断するための文字やイラストが印刷されている。但し、３ピースタイプのおむつ１の場合、仮に、腹側帯部材２０の形状と背側帯部材３０の形状とを同じにしてしまうと、使用者は、おむつ１に前後の違いがあることを認識することなく、おむつ１に印刷された文字等を確認せずに、おむつ１を前後誤って着用させてしまう（又は着用してしまう）虞がある。

[0030] そこで、本実施形態のおむつ１では、図５に示すように伸長状態で、接合部４０よりも縦方向の股下部側において、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とを縦方向にずらして配置している。つまり、腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３と背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３とで縦方向の位置が異なり、おむつ１の厚さ方向において腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３と背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３とが重ならない構成となっている。

[0031] そうすることで、腹側延出部２０Ｂが腹側弾性部材２３の収縮により受ける影響と、背側延出部３０Ｂが背側弾性部材３３の収縮により受ける影響とが異なり、また、腹側延出部２０Ｂと背側延出部３０Ｂとは個別に変形可能なため、おむつ１の自然状態において（即ち、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが収縮した状態において）、腹側延出部２０Ｂの形状と背側延出部３０Ｂの形状とを異ならせることができる。具体的には、図６に示すように、腹側延出部２０Ｂの横方向の側縁２０Ｂｅの波形状と背側延出部３０Ｂの横方向の側縁３０Ｂｅの波形状とを異ならせたり、腹側延出部２０Ｂの縦方向股下部側の端縁２０ＢＥの波形状と背側延出部３０Ｂの縦方向股下部側の端縁３０ＢＥの波形状とを異ならせたりすることができる。このように、腹側延出部２０Ｂ及び背側延出部３０Ｂによっておむつ１に前後の違いを出させ、おむつ１に前後の違いがあることを使用者に認識させることで、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことを抑制できる。

[0032] 接合部４０よりも縦方向の股下部側において、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向にずれているかの否かの判断は、以下に示す方法にて行うことができる。なお、以下に示す全ての方法において、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向にずれていると判断されたものに限らず、以下に示す何れかの方法において、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向にずれていると判断されたものであれば、上記効果が得られ、本発明に係るおむつ１（吸収性物品）に該当する。また、以下に示す方法は一例であり、これ以外の方法にて腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向にずれているかの否かの判断を行ってもよい。

[0033] まず、腹側帯部材２０と背側帯部材３０とが接合部４０にて接合されている状態で、且つ、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０を伸長させた状態で、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから縦方向の股下部側にＮ番目（Ｎ＝１、２、３…）に位置する腹側弾性部材２３と、同じく接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから縦方向の股下部側にＮ番目に位置する背側弾性部材３３と、が縦方向にずれているか否かを目視にて確認する方法が挙げ

られる。また、目視にて確認するに限らず、例えば、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから縦方向の股下部側にＮ番目（例えば３番目）に位置する腹側弾性部材２３から、背側帯部材３０の縦方向股下部側の端縁３０ＢＥまでの縦方向の距離（図５のＬａ１）と、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから縦方向の股下部側にＮ番目（例えば３番目）に位置する背側弾性部材３３から、背側帯部材３０の縦方向股下部側の端縁３０ＢＥまでの縦方向の距離（図５のＬｂ１）と、を比較して、その距離が異なる場合に、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向にずれていると判断してもよい。また、背側帯部材３０の縦方向股下部側の端縁３０ＢＥから弾性部材２３，３３までの距離を測定するに限らず、例えば、腹側帯部材２０の縦方向股下部側の端縁２０ＢＥや、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａや、背側帯部材２０又は腹側帯部材３０の縦方向腰部側の端縁Ｅから、弾性部材２３，３３までの距離を測定してもよい。

[0034] その他、おむつ１の接合部４０を破って図２や図３に示すような展開状態にし、且つ、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０を伸長させた状態で、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから縦方向の股下部側にＮ番目（例えば１番目）に位置する腹側弾性部材２３から、腹側帯部材２０の縦方向腰部側の端縁Ｅまでの縦方向の距離（図５のＬａ２）と、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから縦方向の股下部側にＮ番目（例えば１番目）に位置する背側弾性部材３３から、背側帯部材３０の縦方向腰部側の端縁Ｅまでの縦方向の距離（図５のＬｂ２）と、を比較して、その距離が異なる場合に、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向にずれていると判断してもよい。なお、腹側帯部材２０の縦方向股下部側の端縁２０ＢＥや、接合部４０の縦方向股下部側の端縁４０ａから、弾性部材２３，３３までの距離を測定してもよい。但し、その場合には、おむつ１を展開する前に、端縁２０ＢＥ，４０ａの位置を腹側帯部材２０や背側帯部材３０にマークしておくとよい。

[0035] また、上記方法を行う際に、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０の伸長状

態が保持されるように、例えば、表面に微細な凹凸が設けられた部材に、腹側帯部材２０，背側帯部材３０を固定した状態で行うとよい。また、腹側帯部材２０，背側帯部材３０の横方向の長さが、腹側帯部材２０，背側帯部材３０を構成する不織布であり弾性部材２３，３３が配置される前の不織布の横方向の長さ、又は、それに近い長さになるまで、腹側帯部材２０，背側帯部材３０を伸長させた状態で行うとよい。

[0036] また、本実施形態のおむつ１では、伸長状態で、腹側本体部２０Ａの腹側弾性部材２３と背側本体部３０Ａの背側弾性部材３３とが縦方向にずれている。そのため、腹側本体部２０Ａに配置された腹側弾性部材２３の収縮により腹側延出部２０Ｂが受ける影響と、背側本体部３０Ａに配置された背側弾性部材３３の収縮により背側延出部３０Ｂが受ける影響とが異なり、腹側延出部２０Ｂの形状と背側延出部３０Ｂの形状とをより異ならせることができる。よって、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことをより確実に抑制できる。但し、これに限らず、腹側本体部２０Ａの腹側弾性部材２３と背側本体部３０Ａの背側弾性部材３３とを縦方向に揃えて配置してもよい。

[0037] また、本実施形態のおむつ１では、図３や図５に示すように、腹側帯部材２０を構成する不織布２１，２２の縦方向の長さＬ２０よりも、背側帯部材３０を構成する不織布３１，３２の縦方向の長さＬ３０の方が長く、且つ、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０の縦方向腰部側の各端縁Ｅが揃っている。そのため、腹側帯部材２０（腹側延出部２０Ｂ）における縦方向の股下部側の端縁２０ＢＥと、背側帯部材３０（背側延出部３０Ｂ）における縦方向の股下部側の端縁３０ＢＥとが、縦方向にずれている。よって、腹側延出部２０Ｂの形状と背側延出部３０Ｂの形状とをより異ならせることができ、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことをより確実に抑制できる。

[0038] 特に、腹側帯部材２０における縦方向の股下部側の端縁２０ＢＥに対して、背側帯部材３０における縦方向の股下部側の端縁３０ＢＥを、縦方向の股下部側にずらすことで、おむつ１の形状を一般的な下着の形状に近付けることができる。そのため、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことをより

確実に抑制できる。また、使用者がおむつ１に印刷された文字等を確認しなくとも、おむつ１の前後が判別され易いため、素早くおむつ１が着用されたり、おむつ１から文字等をなくしたりすることができる。その他、腹側帯部材２０における縦方向の股下部側の端縁２０ＢＥがより腰部側（上側）に位置するため、脚周り開口１ＨＬが広がり、着用時に着用者の脚が腹側帯部材２０に引っ掛かり難くなって、おむつ１が着用し易くなり、また、着用者の脚の可動域を広げることができる。一方、背側帯部材３０における縦方向の股下部側の端縁３０ＢＥがより股下部側（下側）に位置するため、着用者の臀部の被覆性を高めることができる。但し、これに限らず、背側帯部材３０の縦方向股下部側の端縁３０ＢＥよりも腹側帯部材２０の縦方向股下部側の端縁２０ＢＥを縦方向の股下部側にずらしてもよい。

[0039] また、本実施形態のおむつ１では、図５に示すように、縦方向の最も股下部側の腹側弾性部材２３ｅに対して、縦方向の最も股下部側の背側弾性部材３３ｅを、縦方向の股下部側にずらして配置する。このように、縦方向の最も股下部側の腹側弾性部材２３ｅをより腰部側（上側）に配置することで、着用時に着用者の脚が腹側弾性部材２３に引っ掛かり難くなって、おむつ１が着用し易くなり、また、着用者の脚の可動域を広げることができる。一方、縦方向の最も股下部側の背側弾性部材３３ｅをより股下部側（下側）に配置することで、着用者のより股下部側の位置に背側延出部３０Ｂをフィットさせることができる。よって、背側延出部３０Ｂのめくれ易い領域、即ち、縦方向の最も股下部側の背側弾性部材３３ｅよりも股下部側の領域を狭くでき、着用者の臀部の被覆性を高めることができる。但し、これに限らず、縦方向の最も股下部側の腹側弾性部材２３ｅを、縦方向の最も股下部側の背側弾性部材３３ｅよりも、縦方向の股下部側に配置してもよい。

[0040] また、本実施形態では、腹側帯部材２０と背側帯部材３０とが重なる領域において、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とが縦方向に交互に配置されているが、これに限らない。例えば、接合部４０よりも縦方向の股下部側において、複数本の腹側弾性部材２３がまとめて配置された領域よりも縦方

向の股下部側に、複数本の背側弾性部材３３をまとめて配置してもよい。また、前述のように、着用し易さや脚の可動性や臀部の被覆性を考慮すると、縦方向の最も股下部側の腹側弾性部材２３ｅが脚の付け根に位置し、縦方向の最も股下部側の背側弾性部材３３ｅが脚と臀部の境目に位置するように、腹側弾性部材２３及び背側弾性部材３３の配置や、腹側帯部材２０及び背側帯部材３０の縦方向の長さを決定するとよい。

[0041] また、図２や図４に示すように、吸収性本体１０における横方向の両側部には、縦方向に伸縮する脚周り弾性部材１５が配置され、そして、背側延出部３０Ｂのうち背側弾性部材３３が伸長状態で配置された部位と、脚周り弾性部材１５が伸長状態で配置された吸収性本体１０の部位とが、接合されている。従って、背側延出部３０Ｂに伸長状態で配置された背側弾性部材３３の一部と、伸長状態で配置された脚周り弾性部材１５の一部とが、交差し、且つ、背側帯部材３０を構成する不織布３１や外装シート１４を介して接合されている。従って、図５に示すように、おむつ１の着用時には、背側弾性部材３３が背側延出部３０Ｂを横方向に引っ張る力Ｆａと、脚周り弾性部材１５が背側延出部３０Ｂを縦方向に引っ張る力Ｆｂとが働く。つまり、横方向と縦方向の合成方向に背側延出部３０Ｂを引っ張る力Ｆａｂが働く。よって、おむつ１に前後の違いを出す部位である背側延出部３０Ｂのフィット性が高まり、臀部の被覆性を高めることができる。

[0042] なお、背側帯部材３０に存在する背側弾性部材３３は、全域に亘って伸長状態で配置されているのではなく、一部（例えば両端）は伸長状態で配置（固定）されておらず、その部分は背側帯部材３０の伸縮性に寄与しない。同様に、腹側弾性部材２３及び脚周り弾性部材１５も伸長状態で配置されていない部位を有する。図２、図３、図５では、腹側弾性部材２３、背側弾性部材３３、脚周り弾性部材１５のうち、伸長状態で配置された部位のみを示す。

[0043] また、背側と同様に腹側においても、腹側延出部２０Ｂのうち腹側弾性部材２３が伸長状態で配置された部位と、脚周り弾性部材１５が伸長状態で配

置された吸収性本体１０の部位とが、接合されている。従って、腹側延出部２０Ｂに伸長状態で配置された腹側弾性部材２３の一部と、伸長状態で配置された脚周り弾性部材１５の一部とが、交差し、且つ、腹側帯部材２０を構成する不織布２１や外装シート１４を介して接合されている。従って、おむつ１の着用時には、横方向と縦方向の合成方向に腹側延出部２０Ｂを引っ張る力が働く。よって、腹側の吸収性本体１０が尿を吸収した後も、吸収性本体１０のみが垂れ下がって着用者とおむつ１との間に隙間が生じてしまうことを抑え、排泄物の漏れを抑制できる。

[0044] 但し、背側延出部３０Ｂにおいて伸長状態で配置された背側弾性部材３３の一部と、伸長状態で配置された脚周り弾性部材１５の一部と、が交差して接合された領域の縦方向の長さ（図５のＬｃ）を、腹側延出部２０Ｂにおいて伸長状態で配置された腹側弾性部材２３の一部と、伸長状態で配置された脚周り弾性部材１５の一部と、が交差して接合された領域の縦方向の長さ（図５のＬｄ）よりも長くしている。具体的には、脚周り弾性部材１５と交差する腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３の数が３本であるのに対して、脚周り弾性部材１５と交差する背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３の数が６本となっている。このことは、腹側帯部材２０における縦方向股下部側の端縁２０ＢＥよりも、背側帯部材３０における縦方向股下部側の端縁３０ＢＥの方が、縦方向の股下部側にずれていることからも言える。従って、腹側延出部２０Ｂよりも背側延出部３０Ｂのフィット性をより高めることができ、臀部の被覆性をより高めることができる。但し、これに限らず、例えば、伸長状態で配置される脚周り弾性部材１５に腹側弾性部材２３や背側弾性部材３３を接合しなくてもよいし、腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３と脚周り弾性部材１５とが交差する領域の縦方向の長さを、背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３と脚周り弾性部材１５とが交差する領域の縦方向の長さ以上にしてもよい。

[0045] また、人間は腹側（前側）に足を動かすことが多く、吸収性本体１０が腹側に引っ張られることが多い。そのため、背側において、吸収性本体１０を

横方向の外側に引っ張る力よりも縦方向の腹側に引っ張る力の方が支配的になり易く、吸収性本体１０の位置がずれて排泄物が漏れ易くなってしまう。しかし、本実施形態のおむつ１では、伸長状態で配置された脚周り弾性部材１５と交差して接合される背側弾性部材３３の数（図５では１０本）を、伸長状態で配置された脚周り弾性部材１５と交差して接合される腹側弾性部材２３の数（図５では７本）よりも多くしている。そのため、着用者が脚を動かすことにより吸収性本体１０が縦方向の腹側に引っ張られても、背側において吸収性本体１０を横方向に引っ張る力も大きいため、吸収性本体１０の位置ずれを抑え、排泄物の漏れを抑制できる。

[0046] また、図３に示すように、腹側帯部材２０のうち縦方向において吸収性本体１０と重ならない部位では、腹側弾性部材２３が、腹側帯部材２０の横方向の両端部間を横方向に連続して配置されている。一方、腹側帯部材２０のうち縦方向において吸収性本体１０と重なる部位では、腹側弾性部材２３が、腹側帯部材２０の横方向の両端部間を横方向に非連続で配置されている。詳しくは、吸収性本体１０と重ならない横方向の両端領域２０Ｃでは、それぞれ、腹側弾性部材２３が横方向に連続して配置されているが、吸収性本体１０と重なる中央領域２０Ｄでは、腹側弾性部材２３が横方向に非連続で配置されている。この実施形態では、中央領域２０Ｄの横方向の両端部にだけしか腹側弾性部材２３が存在しておらず、腹側弾性部材２３が横方向に非連続で配置されている。その他、中央領域２０Ｄの横方向の両端部間を連続し且つ伸長状態で配置された腹側弾性部材２３を１箇所又は複数箇所で切断した場合にも、腹側弾性部材２３が横方向に非連続で配置されることになる。

[0047] このように、腹側帯部材２０のうち吸収性本体１０と重なる領域に配置される腹側弾性部材２３を、横方向に非連続に配置することで、吸収性本体１０が腹側弾性部材２３により収縮してしまうことを抑制でき、吸収性本体１０における皺の発生を抑え、吸収性本体１０を平坦に保つことができる。ゆえに、腹側帯部材２０と重なる裏面シートの部位１３ｆに印刷された文字等が見え難くなってしまうことを防ぎ、おむつ１が前後誤って着用されてしま

うことを抑制できる。また、排尿位置付近の吸収生本体１０が平坦に保たれるため、尿の吸収性が向上し、且つ、吸収性本体１０の皺に起因する尿漏れも抑制できる。

[0048] また、この実施形態では、腹側帯部材２０のうち吸収性本体１０と重なる全域において、腹側弾性部材２３が非連続で配置されているが、これに限らない。例えば、接合部４０よりも縦方向の股下部側の腹側弾性部材２３のうち、吸収性本体１０と重なる部位だけが、横方向に非連続となる部位を有するようにしてもよい。この場合にも、接合部４０よりも縦方向の股下部側の吸収性本体１０が収縮してしまうことを抑制できる。また、接合部４０よりも縦方向の股下部側において腹側弾性部材２３が腹側帯部材２０の横方向の両端部間を横方向に連続して配置されている場合に比べ、腹側延出部２０Ｂによる脚の動きの規制が緩和され、着用者の脚の可動性を高めることができる。

[0049] なお、背側弾性部材３３も腹側弾性部材２３と同じ構成となっている。簡単に説明すると、背側帯部材３０のうち、吸収性本体１０と重ならない部位では、背側弾性部材３３が横方向に連続して配置され、吸収性本体１０と重なる部位では、背側弾性部材３３が横方向に非連続で配置されている。ゆえに、背側帯部材３０と重なる吸収性本体１０の部位も平坦に保たれ、背側帯部材３０と重なる裏面シートの部位１３ｂに印刷された文字等が見え難くなってしまうことを防ぎ、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことを抑制できる。但し、これに限らず、例えば、接合部４０よりも縦方向の股下部側の腹側弾性部材２３や背側弾性部材３３が、腹側帯部材２０や背側帯部材３０の横方向の両端部間を横方向に連続するようにしてもよい。

[0050] また、腹側帯部材２０のうち接合部４０よりも縦方向の股下部側の部位（腹側延出部２０Ｂ）の横方向の収縮力の方が、背側帯部材３０のうち接合部４０よりも縦方向の股下部側の部位（背側延出部３０Ｂ）の横方向の収縮力よりも高くなっている。そのために、この実施形態では、腹側延出部２０Ｂに配置（固定）する際の腹側弾性部材２３の伸長倍率を、背側延出部３０Ｂ

に配置する際の背側弾性部材３３の伸長倍率よりも高くしている。伸長倍率とは、弾性部材２３，３３がその自然長から何倍伸長された状態にあるのかを示す指標であり、伸長状態の弾性部材２３，３３の長さ（ＬＳ）を、非伸長状態の弾性部材２３，３３の長さ（自然長）Ｌ０で除算した値（＝ＬＳ／Ｌ０）とする。その他、例えば、腹側延出部２０の腹側弾性部材２３を、背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３よりも太くしてもよいし、腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３の縦方向の間隔を、背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３の縦方向の間隔よりも狭くしてもよいし、腹側延出部２０Ｂ近傍の腹側弾性部材２３の収縮力を、背側延出部３０Ｂ近傍の背側弾性部材３３の収縮力よりも高めてもよい。

[0051] つまり、腹側弾性部材２３による腹側延出部２０Ｂの収縮前の横方向の長さに対する収縮後の横方向の長さの比の方が、背側弾性部材３３による背側延出部３０Ｂの収縮前の横方向の長さに対する収縮後の横方向の長さの比よりも、小さくなっている。そのため、腹側帯部材２０を構成する不織布２１，２２の横方向の長さと背側帯部材３０を構成する不織布３１，３２の横方向の長さは等しいが、図６に示すように、おむつ１の自然状態において、吸収性本体１０よりも横方向一方側の腹側延出部２０Ｂの縦方向股下部側の端縁２０ＢＥの横方向の長さＬｅを、吸収性本体１０よりも横方向一方側の背側延出部３０Ｂの縦方向股下部側の端縁３０ＢＥの横方向の長さＬｆよりも、短くすることができ、おむつ１の形状を一般的な下着の形状に近付けることができる。そのため、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことをより確実に抑制でき、また、使用者がおむつ１に印刷された文字等を確認しなくても、おむつ１の前後が判別され易くなる。その他、脚周り開口１ＨＬが広がるため、着用時に着用者の脚が腹側帯部材２０に引っ掛かり難くなって、おむつ１が着用し易くなり、また、着用者の脚の可動域を広げることができる。一方、背側延出部３０Ｂの横方向の長さが長く保たれるため、着用者の臀部の被覆性を高めることができる。但し、これに限らず、背側延出部３０Ｂの横方向の収縮力を腹側延出部２０Ｂの横方向の収縮力以上にしてもよい。

[0052] また、おむつ１に前後の違いを出す部位である腹側延出部２０Ｂに配置される腹側弾性部材２３、及び、背側延出部３０Ｂに配置される背側弾性部材３３は、着用者へのおむつ１のフィット性にあまり影響しない。そこで、本実施形態のおむつ１では、接合部４０よりも縦方向の股下部側の腹側弾性部材２３及び背側弾性部材３３、即ち、腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３及び背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３のデニール（太さ）を、縦方向において接合部４０と重なる腹側弾性部材２３及び背側弾性部材３３、即ち、腹側本体部２０Ａの腹側弾性部材２３及び背側本体部３０Ａの背側弾性部材３３のデニール（太さ）よりも低くする（細くする）。

[0053] そうすることで、腹側本体部２０Ａの腹側弾性部材２３及び背側本体部３０Ａの背側弾性部材３３によって、着用者へのおむつ１のフィット性を高めつつ、腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３及び背側延出部３０Ｂの背側弾性部材３３による跡（ゴム跡）を着用者に付き難くさせることができる。特に、人間は腹側に足を動かすことが多いため、腹側延出部２０Ｂの腹側弾性部材２３のデニールを低くすることで、腹側延出部２０Ｂによる脚の動きの規制が緩和され、着用者の脚の可動性を高めることができる。

[0054] ＝＝＝変形例＝＝＝

図７は、使い捨ておむつ１の変形例を説明する図である。上記実施例では、腹側帯部材２０における縦方向股下部側の端縁２０ＢＥに対して、背側帯部材３０における縦方向股下部側の端縁３０ＢＥを、縦方向の股下部側にずらし、また、腹側延出部２０Ｂの横方向の収縮力を背側延出部３０Ｂの横方向の収縮力よりも高くしているが、これに限らない。例えば、伸長状態において腹側帯部材２０における縦方向股下部側の端縁と背側帯部材３０における縦方向股下部側の端縁とを縦方向に揃え、また、腹側延出部２０Ｂの横方向の収縮力と背側延出部３０Ｂの横方向の収縮力とを同じにしてもよい。この場合にも、少なくとも接合部４０よりも縦方向の股下部側において、腹側弾性部材２３と背側弾性部材３３とを縦方向にずらすことで、図７に示すように、腹側延出部２０Ｂの形状と背側延出部３０Ｂの形状とを異ならせるこ

とができる。具体的には、腹側延出部２０Ｂ及び背側延出部３０Ｂの横方向の各両側縁の波形状を異ならせたり、腹側延出部２０Ｂ及び背側延出部３０Ｂの縦方向股下部側の各端縁の波形状を異ならせたりすることができる。よって、おむつ１に前後の違いがあることを使用者に認識させることができ、その結果、おむつ１が前後誤って着用されてしまうことを抑制できる。

[0055] ＝＝＝その他の実施の形態＝＝＝

上記実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。また、本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更や改良され得るとともに、本発明にはその等価物が含まれるのはいうまでもない。

[0056] 例えば、上記実施形態では、腹側弾性部材２３、背側弾性部材３３、脚周り弾性部材１５として糸ゴムを例示したが、これに限らない。例えば、弾性部材として、帯状のゴムや、伸縮性を有する帯状の不織布や樹脂フィルム等を用いてもよい。また、上記実施形態ではおむつを例示しているが、本発明に係る吸収性物品を例えば生理用ナプキンとして利用してもよい。

符号の説明

[0057] １　おむつ（吸収性物品）、１ＨＢ　胴周り開口、１ＨＬ　脚周り開口、
１０　吸収性本体、１１　吸収性コア、１２　表面シート、１３　裏面シート、
１４　外装シート、１５脚周り弾性部材、１６　立体ギャザー弾性部材、
ＬＧ　脚周りギャザー、ＬＳＧ　立体ギャザー、
２０　腹側帯部材、２０Ａ　腹側本体部、２０Ｂ　腹側延出部、
２１　不織布、２２　不織布、２３　腹側弾性部材、
３０　背側帯部材、３０Ａ　背側本体部、３０Ｂ　背側延出部、
３１　不織布、３２　不織布、３３　背側弾性部材、
４０　接合部、４１　非接合部

請求の範囲

[請求項1] 縦方向と、前記縦方向と交差する横方向と、を有した吸収性物品であって、

前記縦方向に沿って設けられ、排泄物を吸収する吸収性本体と、

前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の一端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記一端部に前記横方向の中央部が固定された腹側帯部材と、

前記腹側帯部材とは別部材として前記横方向に沿って設けられ、前記吸収性本体の前記縦方向の他端部を前記吸収性本体の非肌側から覆いながら前記他端部に前記横方向の中央部が固定された背側帯部材と、

を有し、

前記腹側帯部材には前記横方向に伸縮する腹側弾性部材が配置され、前記背側帯部材には前記横方向に伸縮する背側弾性部材が配置され、

前記腹側帯部材、及び、前記背側帯部材は、前記腹側帯部材における前記横方向の両側縁の一部と前記背側帯部材における前記横方向の両側縁の一部とが接合される接合部と、前記接合部よりも前記縦方向の股下部側に位置し、前記腹側帯部材における前記両側縁と前記背側帯部材における前記両側縁とが接合されない非接合部と、を有し、

少なくとも前記接合部よりも前記縦方向の股下部側では、前記腹側弾性部材と前記背側弾性部材とが前記縦方向にずれて配置されていることを特徴とする吸収性物品。

[請求項2] 請求項１に記載の吸収性物品であって、

前記腹側帯部材における前記縦方向の股下部側の端縁と、前記背側帯部材における前記縦方向の股下部側の端縁とが、前記縦方向にずれていることを特徴とする吸収性物品。

[請求項3] 請求項２に記載の吸収性物品であって、

前記腹側帯部材における前記端縁に対して、前記背側帯部材における前記端縁が、前記縦方向の股下部側にずれていることを特徴とする吸収性物品。

[請求項4] 請求項１から請求項３の何れか１項に記載の吸収性物品であって、

前記縦方向の最も股下部側の前記腹側弾性部材に対して、前記縦方向の最も股下部側の前記背側弾性部材が、前記縦方向の股下部側にずれていることを特徴とする吸収性物品。

[請求項5] 請求項１から請求項４の何れか１項に記載の吸収性物品であって、

前記吸収性本体における前記横方向の側部には、前記縦方向に伸縮する脚周り弾性部材が配置され、

前記接合部よりも前記縦方向の股下部側において伸長状態で配置された前記背側弾性部材の一部と、伸長状態で配置された前記脚周り弾性部材の一部と、が交差して接合されていることを特徴とする吸収性物品。

[請求項6] 請求項５に記載の吸収性物品であって、

前記接合部よりも前記縦方向の股下部側において伸長状態で配置された前記背側弾性部材の一部と、伸長状態で配置された前記脚周り弾性部材の一部と、が交差して接合された領域の前記縦方向の長さの方が、

前記接合部よりも前記縦方向の股下部側において伸長状態で配置された前記腹側弾性部材の一部と、伸長状態で配置された前記脚周り弾性部材の一部と、が交差して接合された領域の前記縦方向の長さよりも長いことを特徴とする吸収性物品。

[請求項7] 請求項１から請求項６の何れか１項に記載の吸収性物品であって、

前記腹側帯部材のうち前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の部位の前記横方向の収縮力の方が、前記背側帯部材のうち前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の部位の前記横方向の収縮力よりも高いことを特徴とする吸収性物品。

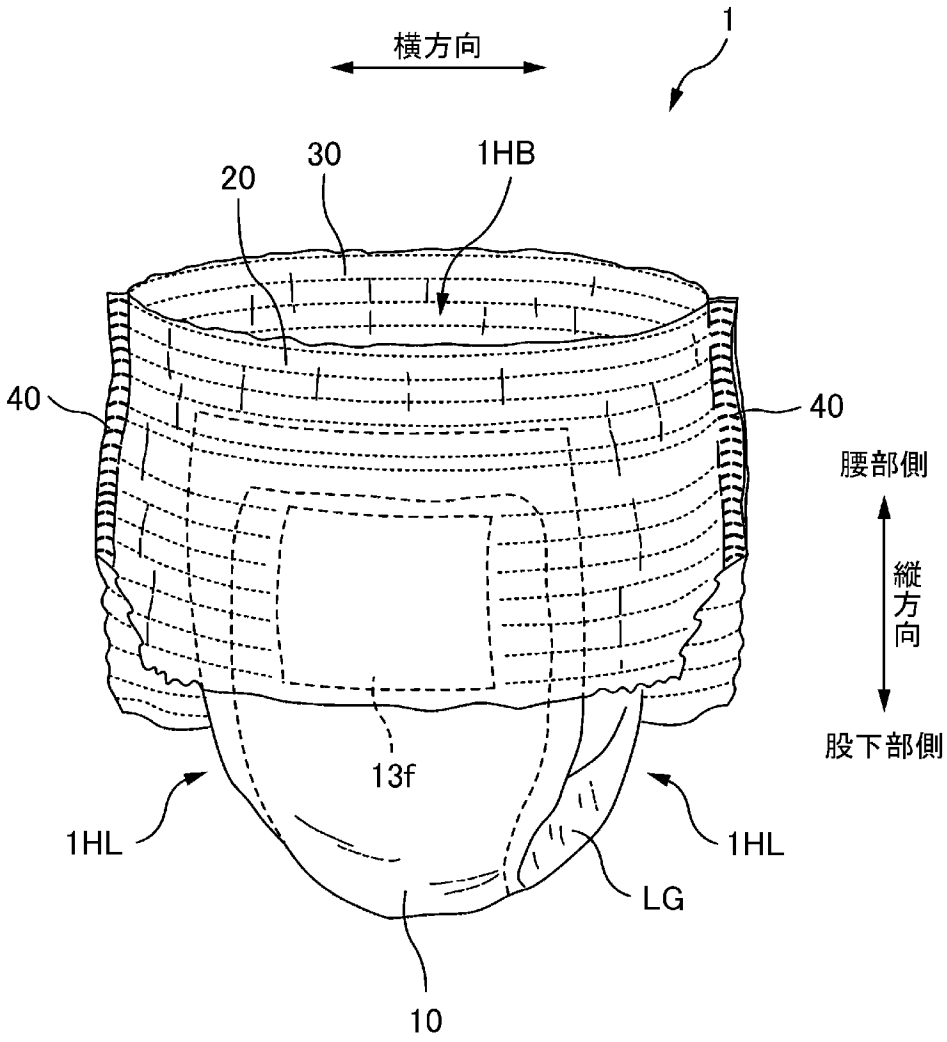
[請求項8] 請求項１から請求項７の何れか１項に記載の吸収性物品であって、

前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の前記腹側弾性部材のうち前記吸収性本体と重なる部位は、前記横方向に非連続となる部位を有することを特徴とする吸収性物品。

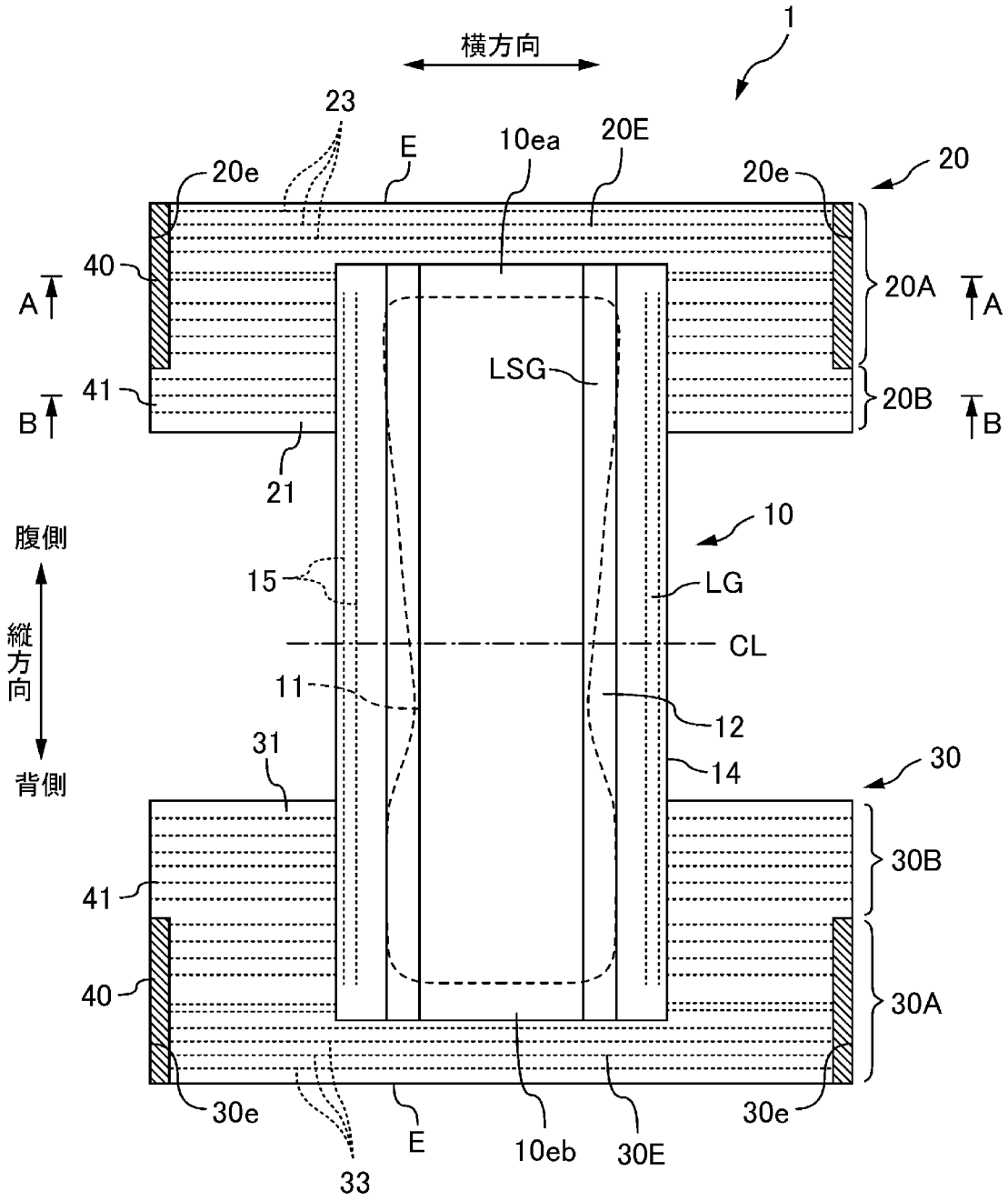
[請求項9] 請求項１から請求項８の何れか１項に記載の吸収性物品であって、

前記接合部よりも前記縦方向の股下部側の前記腹側弾性部材及び前記背側弾性部材のデニールは、前記縦方向において前記接合部と重なる前記腹側弾性部材及び前記背側弾性部材のデニールよりも低いことを特徴とする吸収性物品。

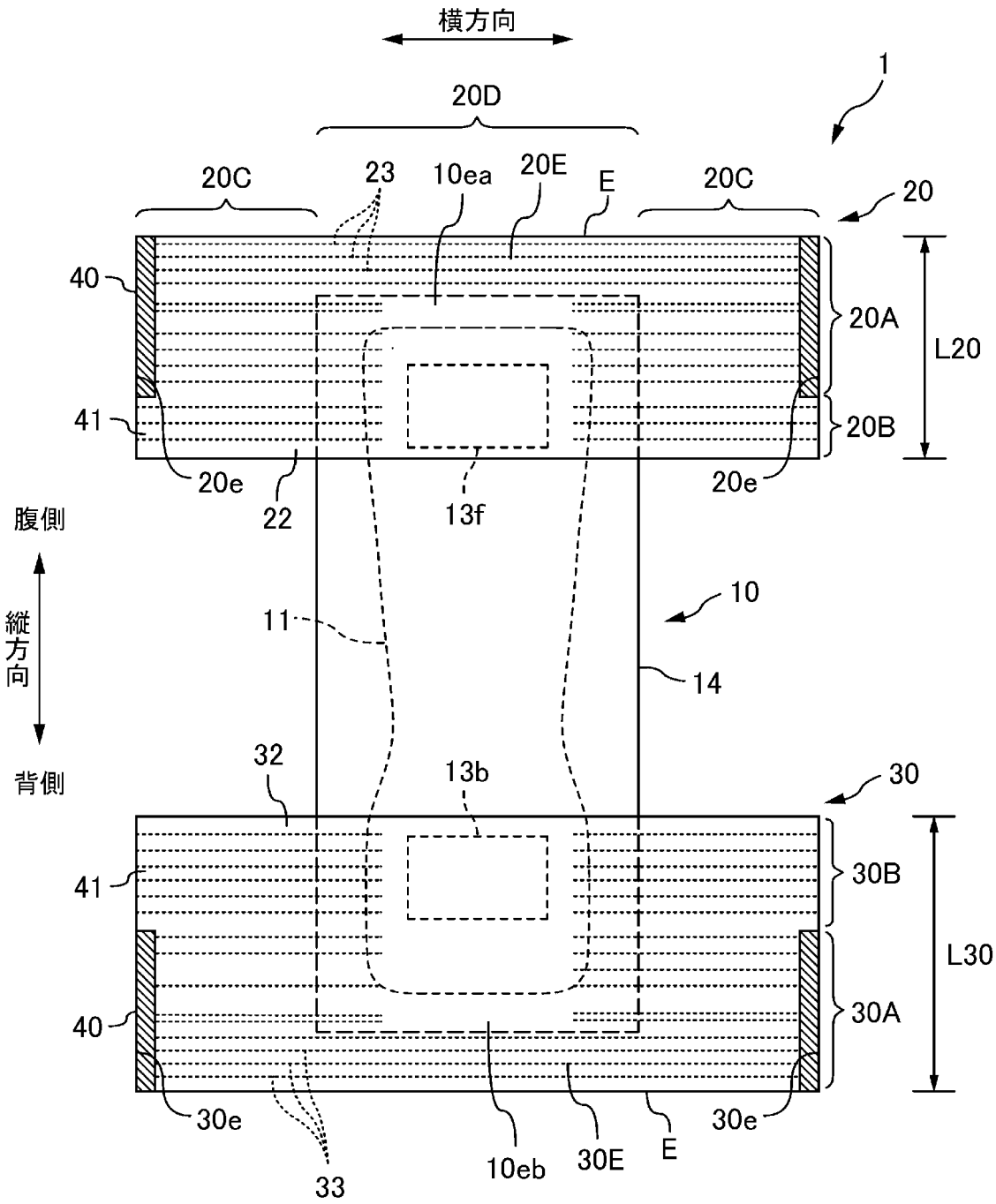
[図1]



[図2]


1
横方向
23
E
10ea
20E
20e
20e
20
40
A
20A
A
41
LSG
B
20B
B
21
10
腹側
15
LG
縦方向
CL
11
12
31
14
30
背側
30B
41
30A
40
30e
30e
E
10eb
30E
33

[図3]


横方向
1
20D
20C
23
10ea
20E
E
20C
20
40
20A
L20
41
20B
20e
22
13f
20e
腹側
縦方向
10
11
14
背側
32
13b
30
41
30B
L30
40
30A
30e
33
10eb
30E
E
30e

[図4]

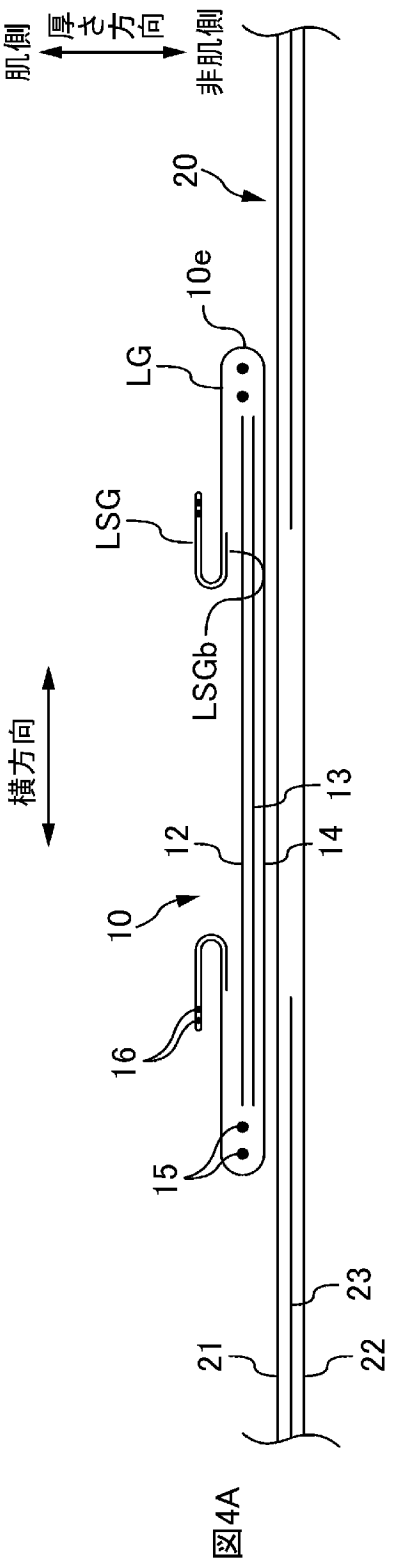

肌側
厚さ方向
非肌側
20
10e
LG
LSG
LSGb
横方向
10
12
13
14
16
15
21
23
22

図4A

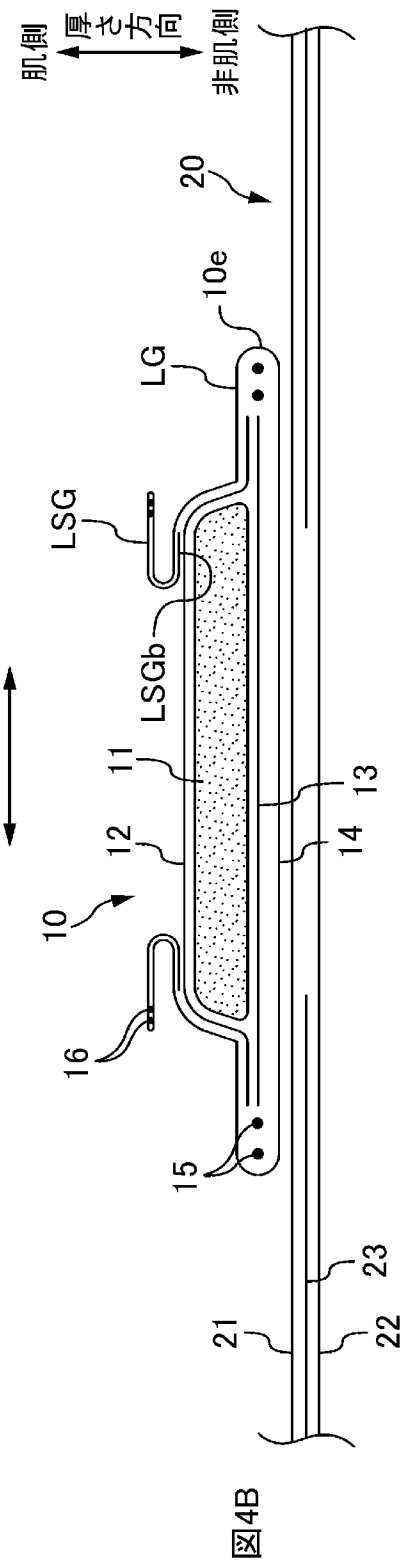
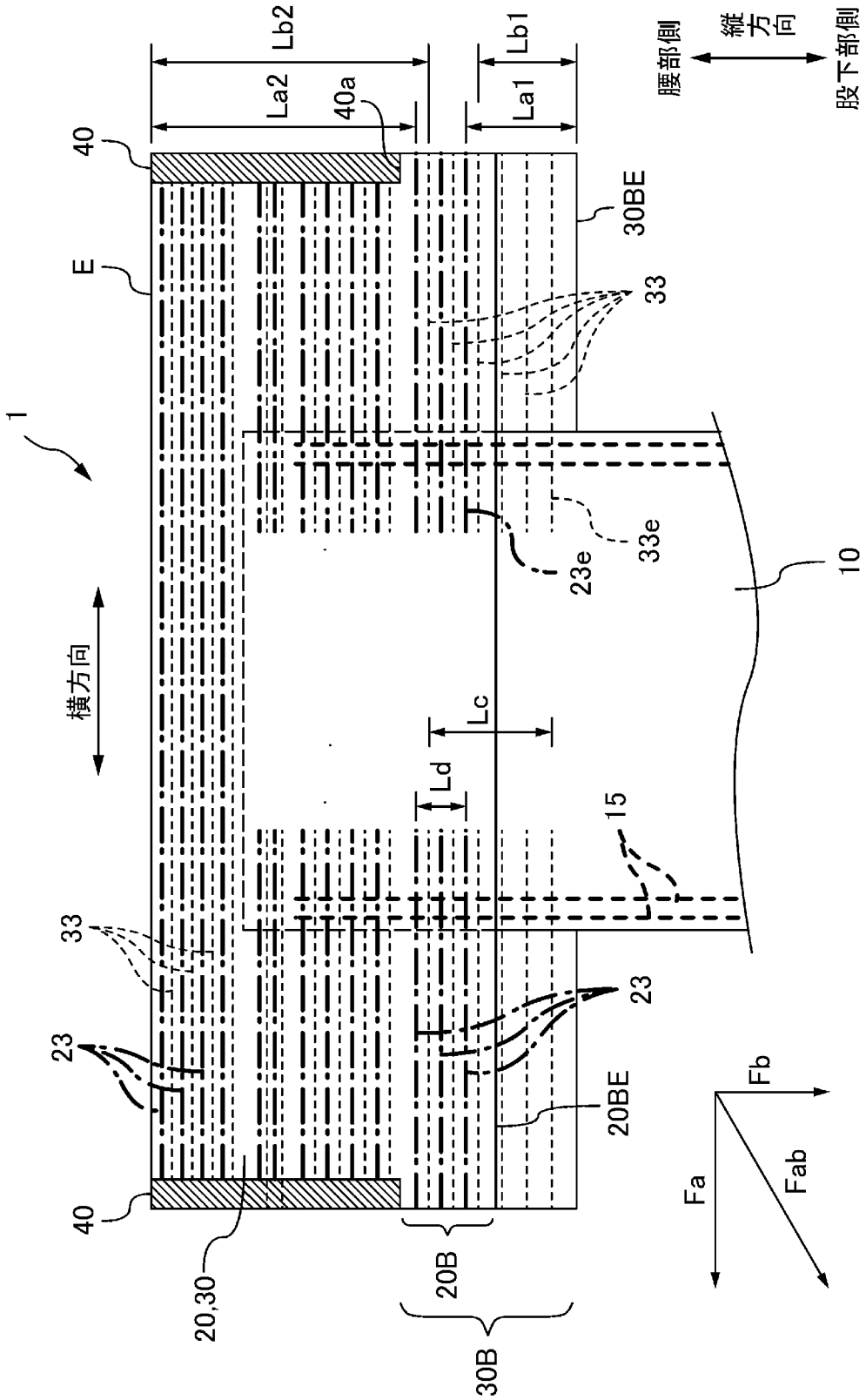
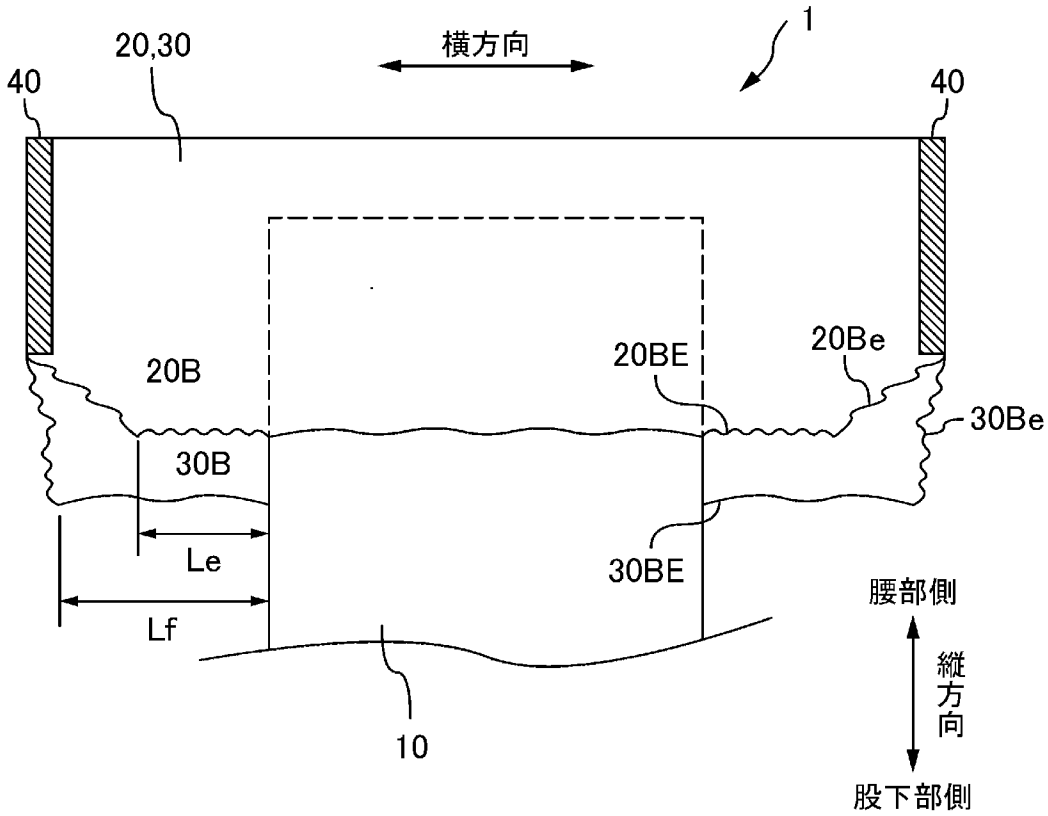

肌側
厚さ方向
非肌側
20
10e
LG
LSG
LSGb
横方向
11
10
12
13
14
16
15
21
23
22

図4B

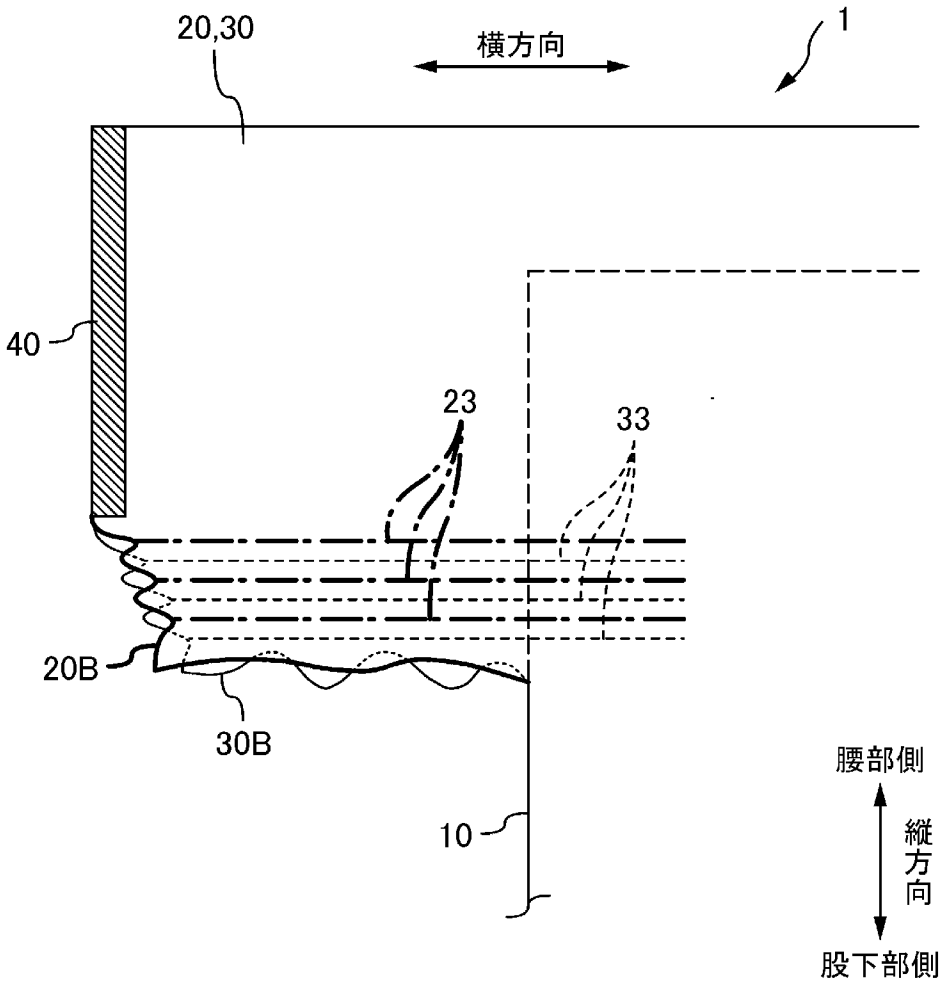
[図5]


Lb2
La2
40a
Lb1
La1
腰部側
縦方向
股下部側
40
E
30BE
33
1
23e
33e
10
横方向
Lc
Ld
15
33
23
23
20BE
Fb
Fa
Fab
40
20,30
20B
30B

[図6]


1
20,30
横方向
40
40
20B
20BE
20Be
30Be
30B
Le
Lf
30BE
腰部側
縦方向
股下部側
10

[図7]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2014/075489

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A61F13/496(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A61F13/00, A61F13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2014
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2014 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2014

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2011-206331 A (Oji Nepia Co., Ltd.), 20 October 2011 (20.10.2011), paragraphs [0019] to [0043]; fig. 1A to 1E & JP 5447091 B2	1-4,8-9 5-7
Y	JP 2013-123447 A (Oji Nepia Co., Ltd.), 24 June 2013 (24.06.2013), paragraphs [0058] to [0060], [0064] to [0066], [0074] to [0075]; all drawings (Family: none)	5-9
Y	JP 2013-169394 A (Oji Nepia Co., Ltd.), 02 September 2013 (02.09.2013), paragraphs [0052] to [0056]; all drawings (Family: none)	5-9

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
04 December, 2014 (04.12.14)	16 December, 2014 (16.12.14)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2014/075489

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2013-128516 A (Kao Corp.), 04 July 2013 (04.07.2013), paragraphs [0036] to [0037], [0039] to [0045]; fig. 1 to 3 & WO 2013/094334 A1 & TW 201328681 A1	7-9

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１４／０７５４８９

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A61F13/496(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A61F13/00, A61F13/15 - 13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報　　１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報　　１９７１－２０１４年
日本国実用新案登録公報　　１９９６－２０１４年
日本国登録実用新案公報　　１９９４－２０１４年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X Y	JP 2011-206331 A（王子ネピア株式会社）2011.10.20, 段落【0019】-【0043】, 図 1A - 1E & JP 5447091 B2	1-4, 8-9 5-7
Y	JP 2013-123447 A（王子ネピア株式会社）2013.06.24, 段落【0058】-【0060】, 【0064】-【0066】, 【0074】-【0075】, 全図（ファミリーなし）	5-9
Y	JP 2013-169394 A（王子ネピア株式会社）2013.09.02, 段落【0052】-【0056】, 全図（ファミリーなし）	5-9

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
０４．１２．２０１４	１６．１２．２０１４

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｂ　９７２２
一ノ瀬　薫
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２０

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	JP 2013-128516 A (花王株式会社) 2013.07.04, 段落【0036】-【0037】, 【0039】-【0045】, 図 1-3 & WO 2013/094334 A1 & TW 201328681 A1	7-9